

医療機関の皆さまへ

横浜市保健所長 豊澤 隆弘

韓国における中東呼吸器症候群（MERS）の発生について（通知）

日ごろから、横浜市の感染症対策に御協力いただき厚くお礼申し上げます。

MERSについては、依然として持続的なヒトーヒト感染は見られないものの、本年5月11日に韓国において発生した輸入症例については、明らかな接触歴がなかったこと等から診断が遅れたことや、医療機関における院内感染対策の不徹底等により、医療従事者や同じ病棟の患者やその家族に二次感染が多数発生しています。

発熱患者等を診察した際には渡航歴を確認いただき、**MERS の感染を考慮した鑑別診断のご検討**と、**院内感染対策の徹底**をお願いするとともに、**MERS の感染が疑われる患者（別紙）があった場合は直ちに下記連絡先まで御連絡をいただきますよう**お願いいたします。

【連絡先】

横浜市保健所 健康安全課 健康危機管理担当
電話：671-2463（平日 8:30～17:15）
664-7293（上記時間外：緊急通報ダイヤル）
FAX：641-6074

〈添付資料〉

- 別 紙：中東呼吸器症候群（MERS）の感染が疑われる場合の対応について
- 別添 1：韓国における中東呼吸器症候群（MERS）の輸入症例の発生について（厚生労働省健康局結核感染症課）
- 別添 2：中東呼吸器症候群（MERS）・鳥インフルエンザ(H7N9)患者に対する院内感染対策
- 別添 3：医療機関職員用チラシ「注意喚起：韓国 MERS の流行情報」

参考 1) 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/mers.html>

参考 2) 国立感染症研究所ホームページ

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/alphabet/mers/2186-idsc/2686-mers.html#niid>

担当：横浜市健康安全課
健康危機管理担当
電話 671-2463

中東呼吸器症候群(MERS)の感染が疑われる場合の対応について

平成 27 年 6 月 3 日

横浜市保健所

1 院内感染対策の徹底

本年 5 月 11 日に韓国において発生した MERS の輸入症例では、明らかな接触歴がなかったこと等から診断が遅れたことや、医療機関における院内感染対策の不徹底等により、医療従事者等への二次感染が広がっております。本疾患が疑われる患者の診察時には**標準予防策及び飛沫感染予防策を徹底**していただきますようお願いいたします。

2 MERS の感染が疑われる患者（情報提供を求める患者の要件）について

患者がア、イ又はウに該当し、かつ、他の感染症又は他の病因によることが明らかでない場合、MERS への感染が疑われますので、**保健所まで情報提供・相談**をお願いします。

ア. 38 度以上の発熱及び咳を伴う急性呼吸器症状を呈し、臨床的又は放射線学的に 実質性肺病変 （例：肺炎又は ARDS）が疑われる者	発症前 14 日以内に 対象地域 （※）に 渡航 又は 居住 していたもの
イ. 発熱を伴う急性呼吸器症状（ 軽症の場合を含む。 ）を呈する者	発症前 14 日以内に 対象地域 （※）において、 <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関を受診又は訪問したもの ・ MERS であることが確定した者との接触歴があるもの ・ ラクダとの濃厚接触歴（例：未殺菌乳の喫食）があるもの
ウ. 発熱又は急性呼吸器症状（ 軽症の場合を含む。 ）を呈する者	発症前 14 日以内に、 <ul style="list-style-type: none"> ・ MERS が疑われる患者を診察、看護若しくは介護していたもの ・ MERS が疑われる患者と同居していたもの ・ MERS が疑われる患者の気道分泌液又は体液等の汚染物質に直接触れたもの

※対象地域：アラビア半島又はその周辺諸国

【連絡先】

横浜市保健所 健康安全課 健康危機管理担当

電話：6 7 1－2 4 6 3（平日 8:30～17:15）

6 6 4－7 2 9 3（上記時間外：緊急通報ダイヤル）

FAX：6 4 1－6 0 7 4

参考 1) 厚生労働省ホームページ

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/mers.html>

参考 2) 国立感染症研究所ホームページ

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/alphabet/mers/2186-idsc/2686-mers.html#niid>

「中東呼吸器症候群（MERS）・鳥インフルエンザ（H7N9）患者に対する院内感染対策」

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/alphabet/mers/2186-idsc/4853-mers-h7-hi.html>

担当：横浜市健康安全課 健康危機管理担当

韓国における中東呼吸器症候群(MERS)の輸入症例の発生について

平成 27 年 6 月 1 日

症例 番号	年齢 性別	推定感染日	推定感染場所	発症日	備考
1	68歳 男性			5月11日	4月18日～5月3日の間で中東諸国に仕事で 来訪。入国時は無症状。 A病院：5月12日・15日外来受診 B病院：5月15日・17日入院 C病院：5月17日・20日(18日・20日入院) D病院：5月20日～
2	63歳 女性	5月15日 -5月17日	B病院	5月19日	1例目の妻
3	76歳 男性	5月16日 (5時間)	B病院	5月20日	B病院で1例目と同室
4	46歳 女性	5月16日 (4時間)	B病院	5月25日	3例目の娘で、B病院で1例目と同室だった 3例目をお見舞いで来院。
5	50歳 男性	5月17日 (1時間未満)	C病院	5月25日	C病院における1例目の診療医師
6	71歳 男性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院	5月24日	B病院における1例目と同じ病棟患者
7	28歳 女性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院	5月26日	B病院における1例目の医療スタッフ
8	46歳 女性		A病院		A病院における1例目の医療スタッフ
9	56歳 男性		B病院		B病院における1例目と同じ病棟患者
10	44歳 男性	5月16日 (4時間)	B病院	5月19日	3例目の息子で4例目の弟。B病院で1例目 と同室だった3例目をお見舞いで来院。
11	79歳 女性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院		B病院における1例目と同じ病棟患者
12	49歳 女性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院		B病院における1例目と同じ病棟患者

13	49歳 男性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院		12例目の夫で、B病院で1例目と同じ病棟患者である12例目のお見舞いで来院。
14	35歳 男性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院		B病院における1例目と同じ病棟患者
15	35歳 男性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院		B病院で1例目と同じ病棟に入院していた母親のお見舞いで来院。
16	40歳 男性	5月15日 -5月17日 (不特定)	B病院		B病院における1例目と同じ病棟患者
17	45歳 男性	5月15日 -5月16日 (不特定)	B病院		B病院における1例目と同じ病棟に入院した患者の息子。
18	77歳 女性	5月15日 -5月16日 (不特定)	B病院		B病院における1例目と同じ病棟患者

中東呼吸器症候群(MERS)・鳥インフルエンザ(H7N9)に対する院内感染対策

(2014年7月25日)

国立感染症研究所感染症疫学センター
国立国際医療研究センター病院国際感染症センター

はじめに

本稿では、中東呼吸器症候群(MERS)(以下「MERS」という。)¹⁾・鳥インフルエンザ(H7N9)(以下「H7N9」という。)²⁾の疑似症患者と患者(確定例)に対して行う院内感染対策の概要について、これまでに明らかになっている情報に基づいて記載する¹⁾²⁾³⁾。これらは現時点での暫定的な推奨であり、今後得られる情報に応じて適宜改訂していくものである。

なお、MERS・H7N9の疑似症患者と患者(確定例)の届出基準は以下のホームページを参照されたい。

□厚生労働省「感染症法に基づく医師の届出のお願い」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kekkaku-kansenshou/kekkaku-ka nsenshou11/01.html

・中東呼吸器症候群(MERS)

・鳥インフルエンザ(H7N9)

MERS・H7N9の疑似症患者、患者(確定例)に対して推奨される院内感染対策

- 外来では呼吸器衛生/咳エチケットを含む標準予防策を徹底し、飛沫感染予防策を行うことが最も重要と考えられる。入院患者については、湿性生体物質への曝露があるため、接触感染予防策を追加し、さらにエアロゾル発生の可能性が考えられる場合(患者の気道吸引、気管内挿管の処置等)には、空気感染予防策を追加する*。

*具体的には、手指衛生を確実に行うとともに、N95マスク、手袋、目の防護具(フェイスシールドやゴーグル)、ガウン(適宜エプロン追加)を着用する。

- 入院に際しては、陰圧管理できる病室もしくは換気の良い個室を使用する。個室が確保できず複数の患者がいる場合は、同じ病室に集めて管理することを検討する。
- 患者の移動は医学的に必要な目的に限定し、移動させる場合には可能な限り患者にサージカルマスクを装着させる。
- 目に見える環境汚染に対して清拭・消毒する。手が頻繁に触れる部位については、目に見える汚染がなくても清拭・消毒を行う。使用する消毒剤は、消毒用エタノール、70v/v%イソプロパノール、0.05 ~0.5w/v% (500~5,000ppm) 次亜塩素酸ナトリウム等。なお、次亜塩素酸ナトリウムを使用する際は、換気や金属部分の劣化に注意して使用する。
- 衣類やリネンの洗濯は通常の感染性リネンの取り扱いに準ずる。
- MERS・H7N9の疑似症患者または患者(確定例)と必要な感染防護策なしで接触した医療従事者は、健康観察の対象となるため、保健所の調査に協力する。MERSの健康観察期間は最終曝露から14日間、H7N9の健康観察期間は最終曝露から10日間である。なお、H7N9に関しては、必要な感染防護策なく接触した医療従事者には抗インフルエンザ薬の予防投与を考慮し、投与期間は最後の接触機会から10日間とする。

<文献>

- 1.中東呼吸器症候群(MERS)のリスクアセスメント (2014年6月9日現在)(国立感染症研究所)
- 2.鳥インフルエンザA(H7N9)ウイルスによる感染事例に関するリスクアセスメントと対応 (2014年3月28日現在)(国立感染症研究所)
- 3.WHO Infection prevention and control of epidemic-and pandemic prone acute respiratory infections in health care April 2014

注意喚起：韓国 MERSの流行情報

- ✓ 中東で長期にわたりMERSが流行しています。
- ✓ 咳やノドの痛みの軽症者がおり、完全に把握・対応するのが難しい感染症のひとつです。
- ✓ 2015年5月に韓国で複数の病院を患者が受診し、**家族や同室者・医療者が感染**。
- ✓ 中東からの直行便は羽田空港や成田空港にも飛んでいます。
- ✓ 当院にもMERS疑い症例が受診したり紹介されてくる可能性があります。

全ての症例で渡航歴を確認

疑い症状があったら別室へ

まずは患者・スタッフともに サージカルマスク着用

横浜市保健所へ連絡を

【連絡先】横浜市保健所 健康安全課 健康危機管理担当

電話：671-2463(平日8:30~17:15)

664-7293(上記時間外：緊急通報ダイヤル)

FAX:641-6074

対象地域：アラビア半島又はその周辺諸国

サウジアラビア、アラブ首長国連邦(UAE)、カタール、オマーン、ヨルダン、クウェート、イエメン、レバノン、イラン 等

【参考：輸入症例発生国】

韓国、マレーシア、フィリピン、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、チュニジア、イタリア、オランダ、オーストリア、ギリシャ、エジプト、アルジェリア、トルコ

【症状】

- ・無症状・軽い風邪症状の人も多い
- ・受診する人では「発熱」「せき」「息切れ」症状に注意
- ・重症の肺炎や腎不全等での死亡例は基礎疾患がある人が多い

【潜伏期間】

2-14日(多くは曝露から5-6日)